

# アンインストールでスリパリとおさらば

## 事前にクラウドのファイルを漏れなく回収

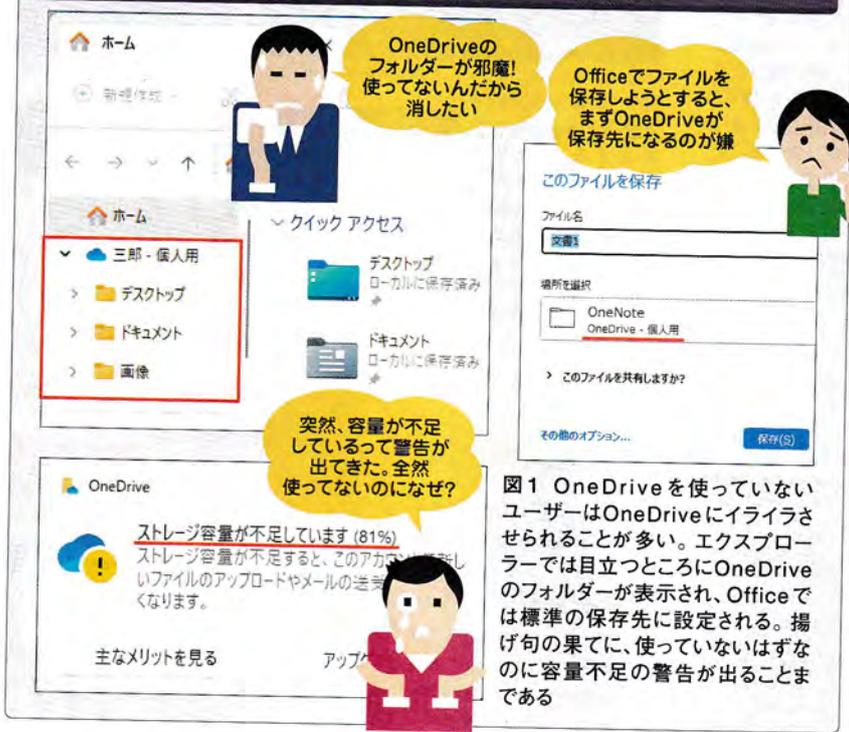
OneDriveを使っていないユーザーにとって、OneDriveは迷惑な存在だ。エクスプローラーでは「ナビゲーションウィンドウ」の目立つところに常に表示され、Microsoft Office(以下、Office)では新規ファイルの標準保存先に設定される。揚げ句の果てに、OneDriveにファイルを保存した覚えはないのに、OneDriveの「ストレージ容量が不足」という警告画面まで表示される始末だ(図1)。

こうした不都合には設定変更で解決できるものもあるが、OneDriveを使わないのにいちいち設定を変えるのもおかしな話。いつそアンインストールするほうがスッキリする。ただし、手順には注意が必要だ。自分

にはそのつもりがなくても、OneDriveに大切なファイルが保存されていることもある。手順を間違えると、こうしたファイルを見失ったり、間違って削除したりしかねない。そうした失敗が起きないように、ステップバイステップで慎重に作業を進めたい(図2)。

通常、Microsoftアカウント

### こんな迷惑はもうごめんだ

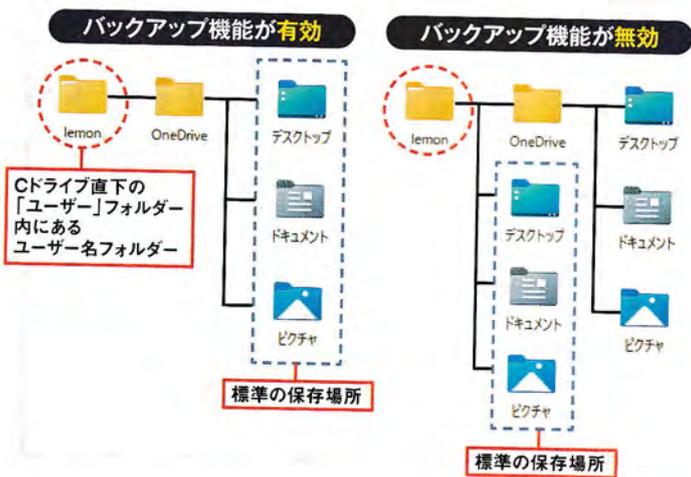


### 失敗のないアンインストールの手順

- バックアップ機能を停止
- ファイルのお引っ越し  
(「OneDrive」フォルダーから「ユーザー名」フォルダーへ)
- OneDriveのアンインストール
- 「OneDrive」フォルダーの削除

図2 OneDriveを使わないなら、アンインストールすればよい。その際は、まず個人用ファイルをはかるべき場所に移動するのが肝要。OneDriveのアンインストールやフォルダーの削除はその後で行う

### バックアップ機能の停止でフォルダー構成が変化



## バックアップ機能を停止



図4 バックアップ機能を停止するには、通知領域にあるOneDriveのアイコンをクリックし、歯車のアイコンを押して「設定」を選択する(1~3)



図5 OneDriveの設定画面が開くので、「同期とバックアップ」の設定を開き、「バックアップを管理」をクリック(1,2)[注1]

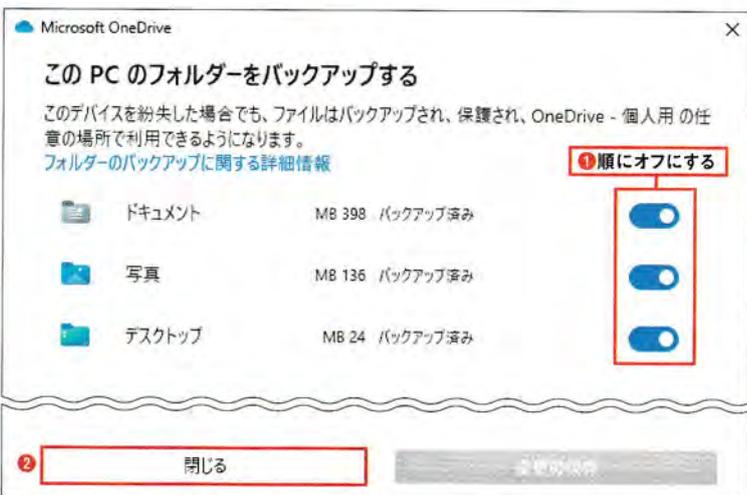


図6 「ドキュメント」「写真」「デスクトップ」欄のボタンを順にクリックしてオフにする(1)。その都度、「フォルダーのバックアップを停止しますか?」と表示されるので、「バックアップの停止」をクリック。終わったら、「閉じる」をクリック(2)

ト(MSアカウント)を使うと、OneDriveのバックアップ機能が自動で有効になる。その場合、図3左に示したように、「OneDrive」フォルダーの直下に「デスクトップ」「ドキュメント」「ピクチャ」の3つのフォルダーが作成され、それらが標準の保存場所に設定される。

OneDriveをアンインストールする前に、まずこのバックアップ機能を無効にする。そうすると図3右のように、ユーザー名フォルダーの直下に「デスクトップ」「ドキュメント」「ピクチャ」が新たに作成され、こちらが標準の保存場所になる。

準備の保存場所に切り替わる。ただし、「OneDrive」フォルダー直下の「デスクトップ」「ドキュメント」「ピクチャ」の3フォルダーは残ったまま。これらのフォルダーの中に取り残されたファイルを救出し、新しい場所に移動する必要がある。

**バックアップ機能を停止してすべてのファイルを移動**

では、実際の手順を見ていこう。通知領域からOneDriveの「同期とバックアップ」の設定画面を開いたら、「バックアップを管理」を押す(図4、

図5)。開く画面で「ドキュメント」「写真」「デスクトップ」欄のボタンを順にクリックして、バックアップ機能をオフにする(図6)。もちろん、もともとオフであればそのままOKだ。

次に、「OneDrive」直下にある「デスクトップ」フォルダー内のファイルを、新たな標準保存先となった

ユーザー名フォルダー直下の「デスクトップ」フォルダーに移動する。両者ともにナビゲーションウィンドウから簡単に開けるので、前者のファイルすべてを選択して後者にドラッグする。クラウドだけに保存されているファイル(雲マーク)も、この操作で実体のファイルが移動する。なおバックアップ機

## OneDrive直下の「デスクトップ」のファイルを移動

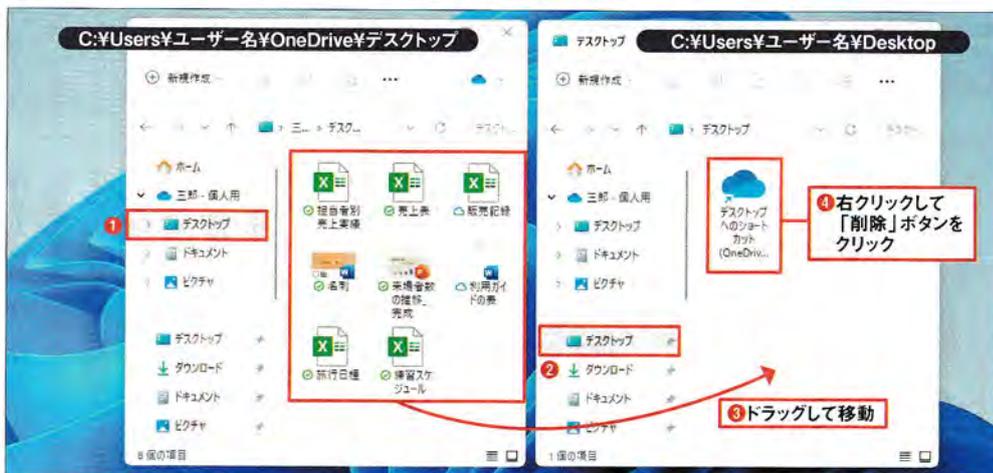


図7 「OneDrive」フォルダーの直下にある「デスクトップ」フォルダーを開き、中にあるファイルを、標準の保存先に移動する。前者はナビゲーションウィンドウのOneDriveの下にある「デスクトップ」(1)、後者はその下の区画に表示された「デスクトップ」(2)を選ぶと開ける。前者にあるファイルをすべて後者にドラッグする(3)[注2]。後者にある「デスクトップへのショートカット...」のアイコンは前者を開くためのもの。不要なので削除してよい(4)

[注1] 環境によっては異なる設定画面が表示される。その場合、「バックアップ」タブを開き、「バックアップを管理」をクリック。開く画面で「デスクトップ」「ドキュメント」「写真」欄の「バックアップを停止」を順にクリック  
[注2] 「削除されたファイルはどの場所からでも削除されます」と表示されるので、「了解しました」を押す

削除

## OneDrive直下の「ドキュメント」のファイルを移動

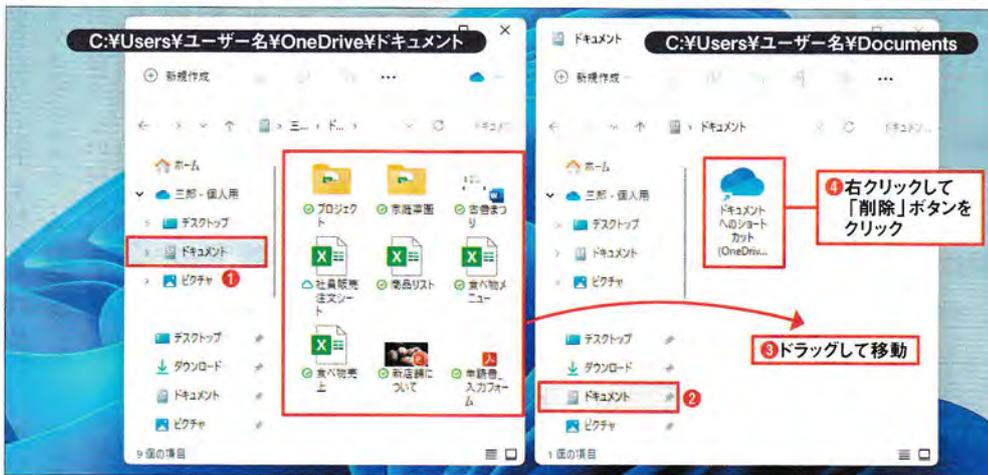


図8 OneDrive直下の「ドキュメント」にあるファイルを、標準の保存先に移動する。両者のフォルダーを開いたら(1)(2)、前者から後者にファイルをドラッグ(3)。不要なショートカットは削除する(4)

## OneDrive直下の「ピクチャ」のファイルを移動



図9 OneDrive直下の「ピクチャ」にあるファイルを、標準の保存先に移動する(1~4)。ただし、「カメラロール」「スクリーンショット」はそれぞれのフォルダーを開いて中身を移動先の同名フォルダーに移す(5)[注3]

## OneDrive直下と「個人用Vault」のファイルを移動

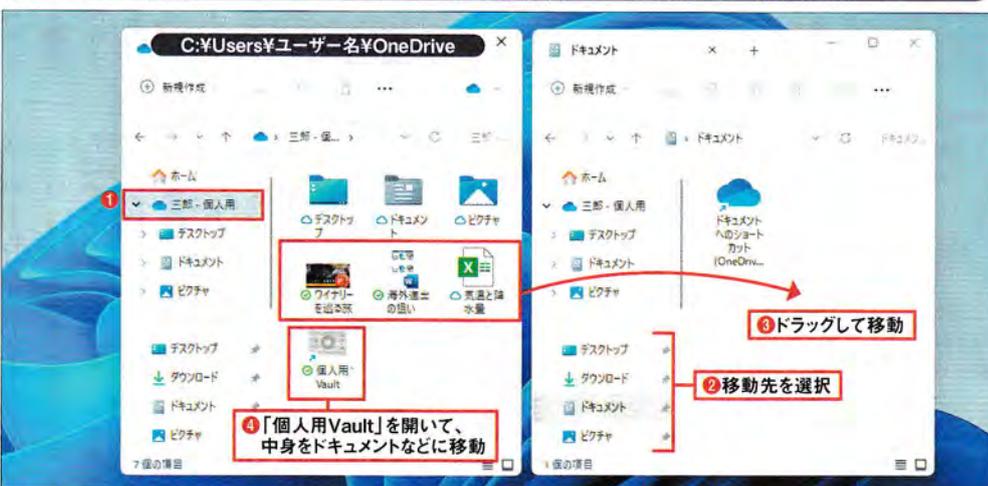


図10 OneDrive直下のファイルを移動する。移動先は「デスクトップ」「ドキュメント」「ピクチャ」から都合の良い場所を選択しよう(1~3)。また、「個人用Vault」を使っている場合、そこにあるファイルも移動する(4)

[注3]「カメラロール」にはパソコンのカメラで撮影した画像、「スクリーンショット」には「PrintScreen」ボタンで撮影したスクリーンショットが保存される。なお、環境によっては、「Saved Pictures」やプリンターが作成したフォルダーなども同じ階層にある

能をオフにした際、後者のフォルダーには前者を開くためのショートカットが作成されているが、これは削除してかまわない(前ページ図7の④)。同様に「ドキュメント」「ピクチャ」、OneDrive直下のファイルも移動させる。「ドキュメント」は、デスクトップと同様の手順でファイルを移動

させるだけで、特に注意すべき点はない(図8)。「ピクチャ」も手順は同様だが、「カメラロール」と「スクリーンショット」のフォルダーの扱いには要注意。これらは移動先にも同名のフォルダーがある。移動元から「カメラロール」と「スクリーンショット」をフォルダーごと移動すると、移動先のフォル

ダーと統合されずに、同名のフォルダーが2つになる。これを避けるには、移動元で「カメラロール」と「スクリーンショット」を開き、それぞれの中身を同名フォルダーに移動する(図9)。OneDrive直下のファイルの扱いにも注意したい(図10)。ここにはセキュリティが強化された「個人用V

ault」フォルダーが置かれている。大事なファイルをここに保存しているなら、忘れずに移動しておく。ここまでで準備完了。いよいよOneDriveのアンインストールだ。やり方は一般的なアプリと同じで、特に迷うことはない(図11)。作業が完了すると、エクスプローラーのナビゲー

## 1台だけOneDriveから離脱するときは



図14 複数のパソコンやスマホを使っているとき、「OneDrive」フォルダー内のファイルを移動すると、ほかの機器からアクセスできなくなる。このため、「OneDrive」フォルダー内にあるファイルは移動せず、必要なファイルはコピーしてOneDriveをアンインストールする(1)(2)

## Officeのインストールで復活するので注意



図15 Officeをインストール(または再インストール)すると、OneDriveもインストールされるので注意が必要



図16 エクスプローラーのナビゲーションウィンドウに「OneDrive」が表示される。クリックすると、OneDriveの設定画面が開く

最後に注意を1点。OneDriveをアンインストールしても、Officeをインストール(または再インストール)すると、再びOneDriveがインストールされてしまう(図15)。このため、エクスプローラーのナビゲーションウィンドウに「OneDrive」と表示されるようになるが、うっかりクリックするとOneDriveの設定画面が開く(図16)。使うのが嫌なら、もう一度アンインストールするしかない。

## 思いがけない操作でOneDriveが復活?

最後に注意を1点。OneDriveをアンインストールしても、Officeをインストール(または再インストール)すると、再びOneDriveがインストールされてしまう(図15)。このため、エクスプローラーのナビゲーションウィンドウに「OneDrive」と表示されるようになるが、うっかりクリックするとOneDriveの設定画面が開く(図16)。使うのが嫌なら、もう一度アンインストールするしかない。

## OneDriveをアンインストール



図11 「設定」画面で「アプリ」を選択したら、「インストールされているアプリ」を開く。「Microsoft OneDrive」欄の「…」をクリックし、「アンインストール」を選択し、画面の指示に従ってアンインストールする(1)(2)

## エクスプローラーからOneDriveが消える



図12 OneDriveをアンインストールすると、エクスプローラーのナビゲーションウィンドウからOneDriveが消える

## 「OneDrive」フォルダーを削除

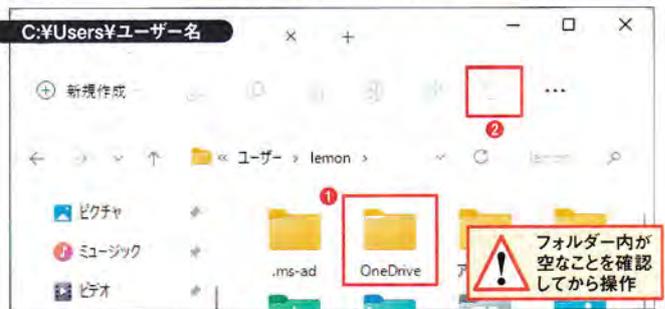


図13 ユーザー名のフォルダーを開き、「OneDrive」フォルダーにファイルが残っていないことを確認したら、フォルダーを選択して「削除」ボタンをクリック(1)(2)

削除

# 後で再開するときの再インストールは簡単

## OneDriveを再インストール



図1 OneDriveを削除した後で、また使いたくなったときは、マイクロソフトのサイトからOneDriveのセットアップファイルを入手する

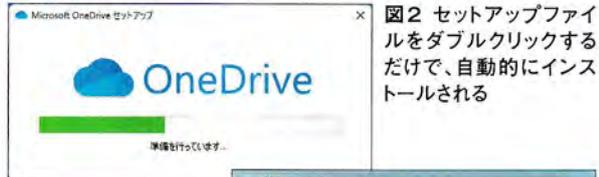


図2 セットアップファイルをダブルクリックするだけで、自動的にインストールされる

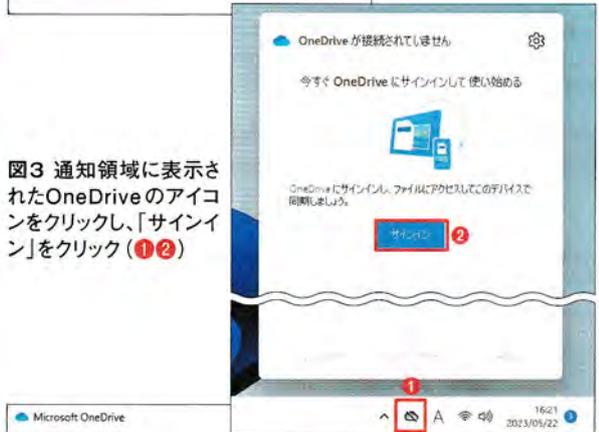


図3 通知領域に表示されたOneDriveのアイコンをクリックし、「サインイン」をクリック(1)(2)



図4 MicrosoftアカウントのIDを入力し、「サインイン」をクリック(1)(2)。画面の指示に従って、サインインを完了する

## Microsoft Storeから入手できるのは別物



図5 Microsoft Storeでも「OneDrive」アプリが提供されている。しかし、これは図1～図4に示した「OneDrive」とは違う。試しに、入手を押してインストールしてみる



図6 インストールされたのは、クラウドのファイルを表示し、アップロードやダウンロードができるアプリだ。しかも一部の機能は使えない[注]

## ウェブ版だけ使う手もある



図7 パソコンにOneDriveを入れずに、ウェブ版OneDriveを使う手もある。ウェブブラウザでサインインすると、クラウド上のファイルを表示したり、アップロードやダウンロードしたりできる

## 使い方がシンプルなウェブ版だけを使う手も

OneDriveをアンインストールした後で、もう一度OneDriveを使いたくなるかもしれない。そんなときも再開の手段は残されているので心配はいらない。

マイクロソフトのサイトからOneDriveの実行ファイルをダウンロードする(図1)。ページには「Windows 10のPCをお使いならば」と記載されているが、Windows 11でも動作する。入手した実行ファイルをダブルクリックすると、自動的にインストールが始まる(図2)。インストールが終わったら、通知領域に表示されるOneDriveのアイコンからサインインしよう(図3、図4)。

マイクロソフトは、Microsoft Storeでも「OneDrive」を提供している。しかし、これは自分で選んだファイルをクラウドにアップロードしたり、クラウドからダウンロードしたりするアプリで、図1のOneDriveとは別物なので間違えないようにしたい。しかもサポートの対象外となっており、一部の機能は使えない(図5、図6)。

なお、OneDriveはウェブ版だけを使う手もある。OneDriveのサイトにサインインすると、ファイルのアップロードやダウンロードが可能。閲覧や編集もできる(図7)。

[注] 画面上のリンクをクリックすると、最新のOneDriveアプリをダウンロードできるが、これは図7のサイトをウェブブラウザの機能でアプリ化したものだ

外付けストレージを保存先に設定

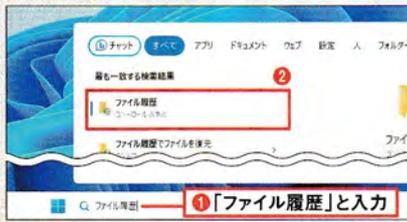


図3 タスクバーの検索ボックスに「ファイル履歴」と入力し、検索結果の「ファイル履歴」をクリック(1)(2)

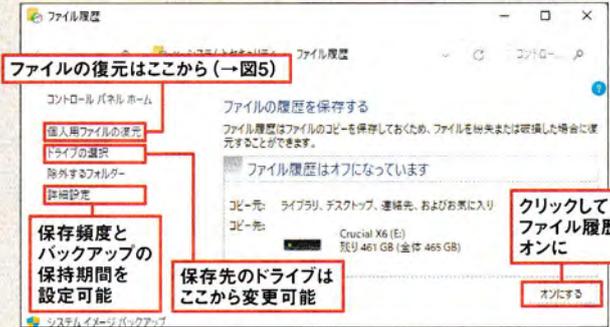


図4 「オンにする」をクリックすると、ファイル履歴が有効になる。利用したいストレージが表示されていないときは、「ドライブの選択」で変更できる。バックアップ頻度は初期設定では1時間置きだが、「詳細設定」から変更できる

なくしたファイルを復元するには

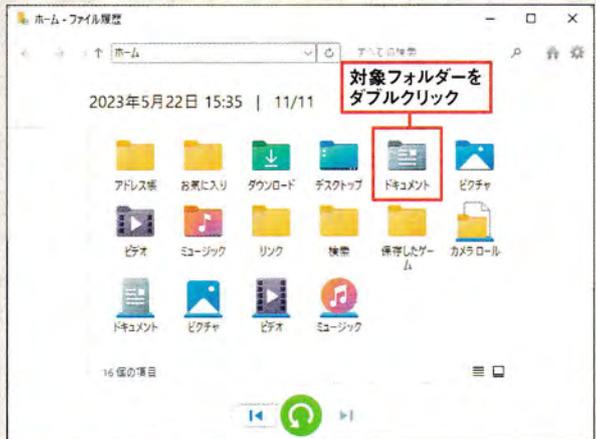


図5 図4で「個人用ファイルの復元」をクリックし、復元したいファイルが保存されていたフォルダーを開く



図6 「前のバージョン」ボタンをクリックして過去の状態に戻り、対象ファイルを選択して、復元のボタンを押す(1~3)

「ファイル履歴」機能で自動バックアップ

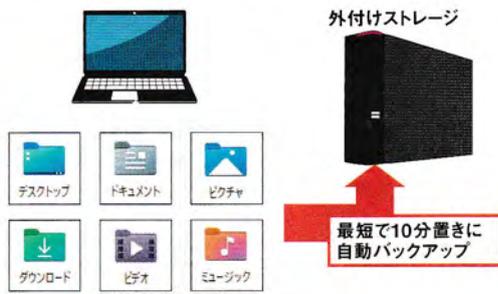


図1 「ファイル履歴」の機能を使うと、「デスクトップ」「ドキュメント」などのフォルダーを外付けストレージに自動バックアップできる

大容量のバックアップはファイル履歴で

方法	対象	タイミング	容量と料金
OneDriveのバックアップ機能	デスクトップ ドキュメント ピクチャ	リアルタイム	5GB(無料) ※100GBのMicrosoft 365 Basicは月260円または年2440円
ファイル履歴	デスクトップ ドキュメント ピクチャ ダウンロード ミュージック ビデオなど	10分置き~ 24時間置き	※参考例 1TBのHDD(実売1万円前後)

図2 ファイル履歴とOneDriveは一長一短。ファイル履歴はリアルタイムではバックアップできないが、対象フォルダーが多く、容量も自由に選べる

OneDriveをアンインストールしておさらばするのは結構だが、ファイルのバックアップの重要性は変わらない。OneDriveの削除を判断したからには、バックアップの代替手段を確保しておく必要がある。

ファイルのバックアップは、Windowsの標準機能「ファイル履歴」を使うのが最も簡単だ。外付けストレージをつなぎっぱなしにしておく、「デスクトップ」「ドキュメント」「ピクチャ」などの主要フォルダーを最短で10分置きに自動バックアップできる(図1)。大切なファイルを外付けストレージにバックアップするのは、セ

キュリティ確保の面でも安心だ。

OneDriveのバックアップ機能と比べると、「ダウンロード」「ミュージック」「ビデオ」なども対象となり、守備範囲が広い。大容量の外付けストレージを用意すれば、バックアップ先の容量不足に悩むこともない(図2)。

外付けストレージを接続した状態でタスクバーの検索ボックスから「ファイル履歴」を起動したら、「オンにする」をクリックするだけで設定は完了(図3、図4)。バックアップ頻度は初期設定では1時間置きだが、最短で10分置きに変更できる。

なくしたファイルを復元したいときは、図4から個人用ファイルの復元画面を開き、対象ファイルを選択して復元のボタンを押せばよい(図5、図6)。

コラム  
OneDriveなしでもバックアップは忘れずに

# ほかのクラウドサービスと賢く併用する

## 知らないで損！ まだあるお得で使いやすいサービス

無料のOneDriveサービスの泣きどころは、上限の容量が5GBしかないところ。Office文書などの保存が中心なら不便を感じないかもしれないが、デジカメやスマホで撮影した大量の写真を保存していると、無料で使える5GBをあっという間に使い切ってしまう(図1)。そんな写真好きのユーザーにお勧めしたいのが、写

真を容量無制限で保存できる「Amazon Photos」だ(図2)。これは、写真と動画だけを保存できるクラウドサービス。有料のプライム会員なら、写真の保存に限り容量無制限で活用できる。プライム会員なら、追加料金なしで利用可能だ。プライム会員の料金は、OneDriveの容量1TBのサービスと比べると半額以

下とかなり安い。通販の送料無料サービスや「Prime Video」「Amazon Music Prime」といったサブスクリプションサービスも利用できる。サービスの豊富さを考えるとかなり割安感がある(図3)。Amazon Photosは、対応する写真や動画のみクラウドに保存する仕組みだ。写真や動画以外のファイ

ル、非対応の写真や動画は保存できない点が、OneDriveとは異なる。対応する写真や動画のファイル形式は多く、JPEGやPNG、MP4など広く使われる形式はもろろんのこと、各カメラメーカーのRAWデータ(カメラのセンサーから直接読み出した生のデータ)を、そのままファイル化したもの)にも対応する。また、クラウドにアップロードした写真や動画はオリジナルのまま記録され、クラウド側での再圧縮や再保存によるデータの劣化はないとしている(図4)。

OneDriveにない便利な機能もある。「ファミリーフォルダ」はAmazon Photosのクラウドを自分を含めて最大6人で共有できる機能だ。容量無制限のクラウドを共有でき、それぞれ個別に利用できる。グループ内で写真や動画を共有する操作も簡単に使いやすい(図5)。

ただし、写真は無制限に保存できるが、動画は5GBまでに限られる。もし必要であれば、有料で容量の追加も可能だ。容量1TBで、月額料金は1300円だ(図6)。

### スマホやタブレットはOS標準のクラウドが便利

OneDriveは、スマホやタブレットで扱いにくい。アプリのインス

### 写真を保存すると5GBはすぐに埋まる

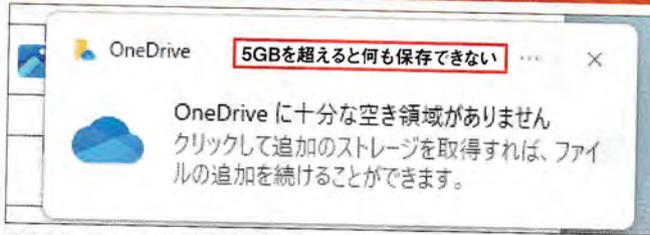


図1 OneDriveは無料では5GBまでしか保存できない。写真を保存すると、すぐに容量を使い切る。写真の保存がメインの使い方なら、OneDriveよりも低価格で容量無制限の別のクラウドサービスを活用しよう

### 写真を保存するなら容量無制限クラウドを使う



図2 「Amazon Photos」は、Amazonが提供する写真と動画保存専用のクラウドサービス。有料のプライム会員であれば、写真なら容量無制限で保存できる

### プライム会員の料金はOneDrive1TB分の半額以下

サービス名 (会員種別)	Amazon Photos (Amazonプライム会員)	OneDrive (Microsoft 365 Personal)
料金	月額500円、年額4900円	月額1490円、年額1万4900円
容量	無制限(写真のみ) ※動画は5GBまで	1TB
家族利用	○(自分を含めて6人)	×
写真や動画以外の保存	×	○
その他のサービス	Amazonの送料無料、Prime Video(動画見放題)、Amazon Music Prime(音楽再生し放題)、Prime Reading(電子書籍読み放題)など	Microsoft Office(デスクトップ版)の利用など

図3 Amazonプライムの会員は月額500円。年額でも4900円で、1TB分のOneDrive(Microsoft 365 Personal)の半額以下で利用できる。Amazon Photosの写真容量無制限だけでなく、Amazonの各種サービスも利用できる

## OneDriveはスマホとの連携がいまひとつ



図7 AndroidやiPhoneでOneDriveを使うには、アプリのインストールが必要。権限などの設定も少し面倒だ

## OS標準のクラウドならアプリのインストール不要



図8 Androidユーザーは「Googleドライブ」、iPhoneユーザーは「iCloud Drive」が便利。OSに組み込まれているためインストールが不要。一定容量は無料で使え、大容量の契約であれば、どちらもOneDriveよりも安い

## 写真を劣化なしで保存しRAWデータにも対応

対応するファイル形式	
写真	JPEG、BMP、PNG、GIF、TIFF（一部を除く）、HEIF、HEVC、iOSバースト写真、iOSライブ写真（Live Photos）、HEIC、ProRaw、JP2、WEBP
写真（RAW）	NEF（ニコン）、CR2/CR3/CRW（キヤノン）、ARW（ソニー）、ORF（オリンパス）、DNG（Adobe）、ERF（エプソン）、MRW（コニカミノルタ）、KDC（Kodak）
動画	MOV/MP4（QuickTime）、AVI、MTS、MPG、ASF、WMV、Flash、HEIF、HEVC、OGG

図4 Amazon Photosは、アップロードした写真や動画を再圧縮せずそのまま保存できるので、画質劣化の心配がない。さまざまなファイル形式に幅広く対応し、カメラ独自のRAWデータもそのまま保存できる

## 容量無制限ストレージを最大6人で共有



図5 Amazon Photosには「ファミリーフォルダ」という機能がある。5人まで招待でき、招待された人も容量無制限のAmazon Photosを無料で利用できる。そのグループ内で写真や動画の共有も可能だ

## 複数のクラウドをフリーソフトで一括管理



図9 複数のクラウドサービスを同時に読み書きできるアプリ。一部機能を無料で利用できる。上記URLを開き「DOWNLOAD for Windows」から入手し、インストールする

## 異なるクラウド間のコピーが簡単

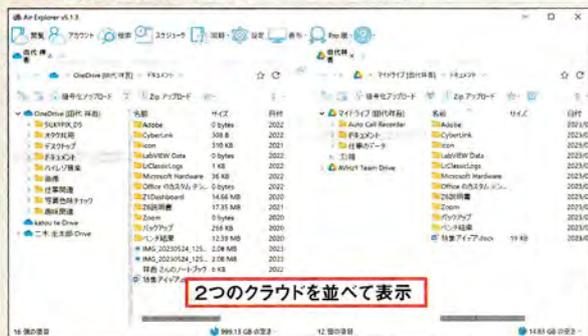


図10 クラウドサービスを選択し登録すると、アプリからクラウドの中身を開ける。異なるクラウドを左右に並べて表示できるので、クラウド間でのコピーや移動も簡単だ

## 動画は5GBまで無料で利用可能



図6 Amazon Photosを容量無制限で利用できるのは写真のみ。動画は無料だと5GBまでに制限される。動画の容量は追加できる。また、OneDriveよりも安価だ

ツールが必要だし、面倒な権限の設定もある。その点、Androidスマホなら「Googleドライブ」を、iPhoneなら「iCloud Drive」を使うと、操作が非常に楽になる。どちらもOSに組み込まれているので、アプリのインストールが不要だし面倒な設定もない。一定容量であれば、どちらも無料で利用できる（図7、図8）。

なお、複数のクラウドサービスを併用するならば、フリーソフトを上手に活用しよう（図9）。「Air Explorer」は、複数のクラウドに同時に接続し、それらを並べて表示できるスグレモノ。クラウド同士のファイルのやり取りもスムーズだ（図10）。

# Amazonの「写真の容量無制限」は格別な安心感

Amazon Photosを容量無制限で使うには、Amazonアカウントを作成しプライムに加入するだけで、すでにアカウントを持っているなら、それを使ってもよい(図1)。

Amazon Photosは無料会員でも利用できるが、使える写真の容量は5GBに限定される。ただし、Amazonプライム会員が「ファミリーフォルダ」を利用して家族や友人を招待した場合、招待された人は無料会員であっても容量無制限で写真を保存できる(図2)。

なお、プライムに登録するには、クレジットカードが必須となる。アカウントを作成後、プライム会員のページで登録する(図3)。

## アップロードはアプリが便利 対象フォルダーを自動でアップ

Amazon Photosに写真をアップロードするには、アプリが便利。アプリはウェブページから入手できる(図4)。

パソコン用のアプリは、パソコン内の任意のフォルダーを指定すると、そ

のフォルダーに含まれた写真や動画を自動でクラウドにアップロードする。アプリは常駐して指定したフォルダーを常に監視しており、それらのフォルダーに追加した写真や動画はその都度自動アップロードされる。

初期設定だと「ピクチャ」と「ビデオ」フォルダーがその対象。そのままだと動画もアップロードするので「ピクチャ」のみに変更する(図5)。アプリの「バックアップ」から、任意のフォルダーを追加することも可能(図6)。例えば、One Driveの「画像」フォ

ルダーをアプリで指定すると、双方のクラウドに自動アップロードできる。

スマホからAmazon Photosに写真をアップロードする際も、専用アプリを使う。iPhoneは「写真」、Androidは標準の「カメラ」アプリが撮影したデータを保存する「DCIM」フォルダーのデータを自動アップロードする。こちらも初期設定では、写真だけでなく動画も自動アップロードの対象になるため、動画を対象から外しておく。また、Androidで「カメラ」アプリ以外の撮影アプリを使っている場合、そのアプリが保存するフォルダーも自動アップロードの対象にする(図7、図8)。

## まずはAmazonのアカウントを作成



図1 Amazon Photosを使うには、Amazonのアカウントが必要。持っていない場合は作成する。Amazonのウェブページからアカウント作成ページを開き(1、2)、必要事項を入力する(3)。確認メールが届くので承諾する

## 容量無制限を利用できるのはプライム会員のみ

会員種別	無料会員	Amazonプライム会員
料金	無料	月額500円、年額4900円
Amazon Photosの容量	5GB[注]	無制限(写真のみ) ※動画は5GBまで
ファミリーフォルダ機能での共有	×	○(自分を含めて6人)
通販の送料	2000円未満の場合 410円ないし450円	無料
そのほかのサービス	なし	Prime Video(動画見放題)、 Amazon Music Prime(音楽再生し放題)、 Prime Reading(電子書籍読み放題)など

図2 写真を容量無制限で保存できるのはプライム会員のみ。最大6人まで容量無制限ストレージを共有できるファミリーフォルダ機能や通販の送料無料、Amazonの各種サービスなども利用できる。無料会員は5GBまで

## Amazonプライムに登録



図3 Amazonのアカウントを作成してサインインした後、Amazonプライムのページを開き「30日間の無料体験を始める」をクリックし、開いた画面で支払い方法などを入力して登録する

## Amazon Photosを利用する



図4 Amazon Photosに写真や動画をアップロードするには専用アプリが便利。Amazon Photosのサイトから各種アプリを入手してインストールする。アップロードした写真をウェブ上で閲覧する際は「サインイン」から入る

[注]ファミリーフォルダで招待された人は写真のみ無制限

クラウドに保存した写真を閲覧



図9 Amazon Photosのウェブページを開き、「サインイン」を選ぶ。Amazonアカウントでサインインすると、パソコンやスマホからアップロードした写真が一覧表示される

目的の写真を探す



図10 検索ボックスに被写体の特徴や場所、状況などを入力して検索すると、該当する写真のみ表示する。左側の「フィルター」から、撮影年月や被写体で選ぶこともできる

クラウドサーバーの写真をもとめてダウンロード



図11 一覧からダウンロードしたい写真の左上をクリックして選択し(1)、上部のメニューから「ダウンロード」を選ぶ(2)

スマホからアプリで写真を閲覧



図12 スマホやタブレットは、アプリからクラウドに保存した写真を表示できる(左)。画面下部から検索や絞り込み表示も可能だ(右)

パソコンから写真をアップロード

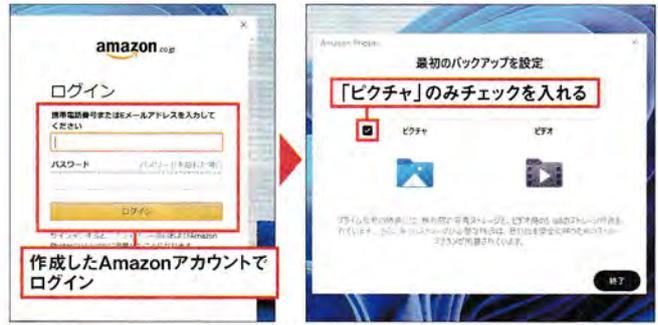


図5 パソコン用アプリを起動するとログイン画面が表示されるのでAmazonアカウントで入る(左)。「最初のバックアップを設定」で「ピクチャ」をチェックすると「ピクチャ」フォルダーの写真を自動アップロードする

写真を保存したフォルダーを選んでアップロード



図6 「バックアップ」から「バックアップの追加」を開く(1)(2)。「バックアップ中のフォルダー」で目的のフォルダーを指定(3)。「バックアップの対象」を「写真」にし(4)、「重複の回避…」をチェックして保存する(5)(6)

スマホから写真をアップロード



図7 スマホアプリを起動しAmazonアカウントでサインインした後、画面左上のAmazonボタンをクリックし(1)、「設定」の歯車ボタンをタップ(2)。開いた画面で「アップロードの設定」を選ぶ(3)



図8 「ビデオを保存」をオフにする(1)。Androidスマホで「カメラ」アプリ以外で撮影した写真も自動アップロードしたいときは「自動保存対象のデバイスフォルダー」をタップし(2)「すべてのデバイスフォルダーを保存」をオンにする(3)

## アルバムを作成し写真を追加する



図17 複数の写真をアルバムとしてまとめておくと、閲覧時の検索が楽になる。アルバムにまとめる写真や動画を選択し(1)、上部のメニューから「アルバムに追加」を選ぶ(2)



図18 アルバムの設定画面が表示されたら「新しいアルバムを作成する」を選ぶ(1)。既存のアルバムに追加する場合は、そのアルバムを選ぶ。アルバムのタイトルを入力し「アルバムを保存」を選ぶ(2,3)

**手元で削除してもサーバーに残る写真を渡すには共有機能が便利**

クラウドにアップロードした写真を閲覧するには、Amazon Photosをウェブブラウザで開く(ページ図9)。クラウド内の写真を探すには、上部の検索ボックスで、被写体や撮影場所などで検索するか、左側の「フィルター」を使い、撮影日や自動的に検出された人物などで探す(図10)。

Amazon PhotosとOne Driveでは、手元でファイルを削除したときの動作が異なる。One Driveは手元でファイルを削除すると、クラウド上のファイルも同時に削

除される。一方、Amazon Photosは手元でファイルを消しても、クラウドのデータは残る。つまり、一度クラウドにアップロードすれば手元のデータを消しても大丈夫だ。

手元で消したデータが再度必要になったら、Amazon Photosの閲覧画面で必要な写真の左上をクリックしてチェックマークを付け「ダウンロード」を選ぶと、再び手元に保存できる(図11)。スマホアプリでもパソコンとほぼ同様の操作ができる(図12)。

Amazon Photosには、第三者への写真や動画の共有機能もある。目当てのファイルを選択し「共有」を選ぶと、URLの作成画面が表示される

## クラウド上の写真を第三者と共有する



図13 共有したい写真の左上をクリックして選択し(1)、上部のメニューから「共有」を選ぶ(2)



図14 共有画面が開いたら「リンク」から「共有リンクを取得」を選ぶ(1)。URLが表示されるので「コピー」を選び(3)、それをメールやSNSなどに貼り付けて共有相手に伝える

## 共有はURLを知っていれば誰でも閲覧可能



図15 共有した写真は、URLを知っている人であれば誰でも閲覧できる。多くの相手に写真を提供するとき便利

## 共有を停止する



図16 Amazon Photosのページの右上にある名前からメニューを開き(1)、「共有アイテム」を選ぶ(2)。現在共有している写真の一覧が開くので、停止したいファイルを選び(3)、「共有の停止」をクリックする(4)

招待される側もAmazonアカウントが必要



図21 招待された人はメールが届くので「今すぐ開始」を選ぶ。Amazonアカウントのログイン画面が表示されるので、招待された人のAmazonアカウントでログインし、「承諾」で利用を開始する

ファミリーフォルダで写真を家族内共有



図22 共有したい写真を選択し(1)、上部のメニューの「その他」から(2)、「ファミリーフォルダに追加」を選ぶ(3)

ファミリーフォルダで共有した写真を表示

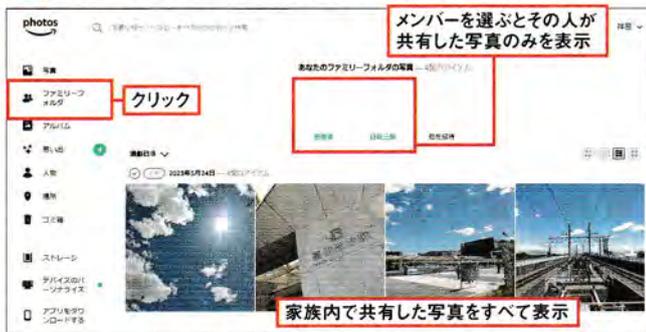


図23 ファミリーフォルダを開くと、家族内で共有した写真がすべて開く。メンバーを指定すると、その人が共有した写真のみ表示する

最大6人で容量無制限ストレージを共有

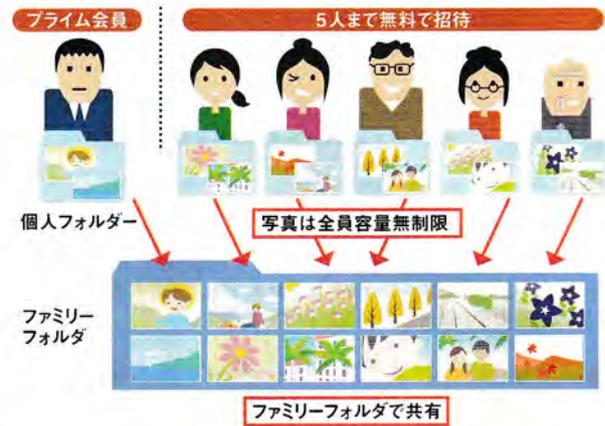


図19 プライム会員はファミリーフォルダという共有機能を持つ。招待された人は、無料で容量無制限のAmazon Photosを利用できる。プライム会員とその招待者のみでの写真や動画の共有も可能だ

ファミリーフォルダに家族や友人を招待する



図20 プライム会員はAmazon Photosから「ファミリーフォルダ」を開き(1)、「他を招待」を選ぶ(2)。招待したい人のメールアドレスを入力し、「招待の送信」を選ぶ(3)

**6人まで写真を無制限保存  
身内で楽々写真共有**

Amazon Photosにはファミリーフォルダという機能がある。1人のプライム会員が5人まで招待でき、全員が写真を無制限で保存できる(図18)。

(図13)。そのURLをメールやSNSなどに貼り付けて相手に渡せばよい(図14)。共有した写真は、そのURLを知っている人であれば誰でも閲覧できる(図15)。共有を止めるには、「共有アイテム」から削除する(図16)。また、アルバム機能もある(図17)。複数の写真をテーマごとにまとめられるので、写真の検索や共有が楽になる(図18)。

併用

動画の容量を追加する



図24 動画は5GBまでなら無料で保存できる。容量が不足したら、「ストレージ」から(1)、「ストレージの管理」を開き(2)、容量プランを選択して有料で容量を増やせる(3)

19)。プライム会員の操作は、招待したい人のメールアドレスを入力して招待するだけ(図20)。招待された側は、メールのリンクを開き、自分のAmazonアカウントでログインすると、ファミリーフォルダに追加されて写真を無制限で保存できる(図21)。このサービスは共有機能も備えており、簡単な操作で写真や動画をファミリーフォルダ内だけで共有できる(図22、図23)。

ちなみに、写真の容量は無制限だが、動画は5GBまで。容量は「ストレージの管理」で追加できる。100GBは月額2490円、1TBは月額1万3800円でOneDriveよりも安価だ(図24)。

課金でGmailなどほかの容量も増える

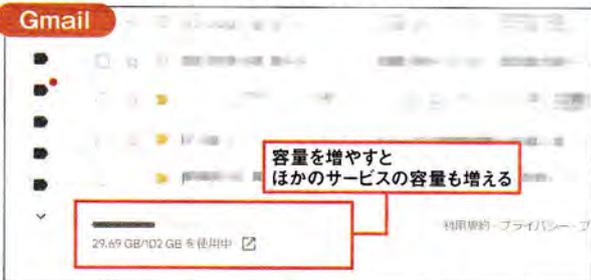


図3 Google Oneの容量はGoogleドライブだけでなく、GmailやGoogleフォトといったほかのサービスと共用する。有料で容量を増やすと、それらのサービスで使える空き容量も増える

アプリを使うとエクスプローラーで読み書き



図4 パソコン用アプリをインストールすると、Googleドライブにエクスプローラーからアクセスできる

GoogleドライブのOCRはスグレもの

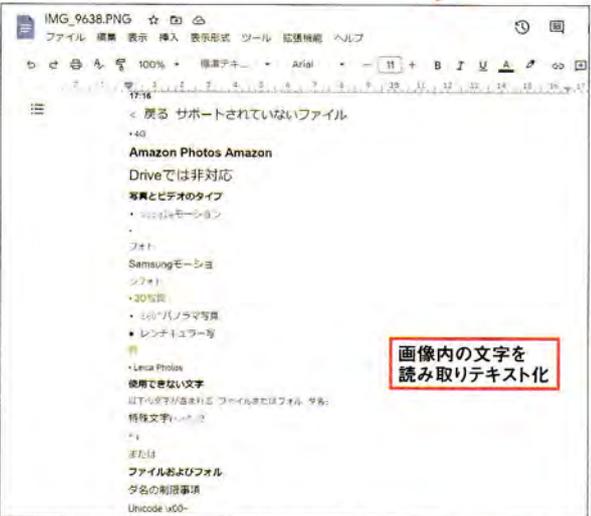
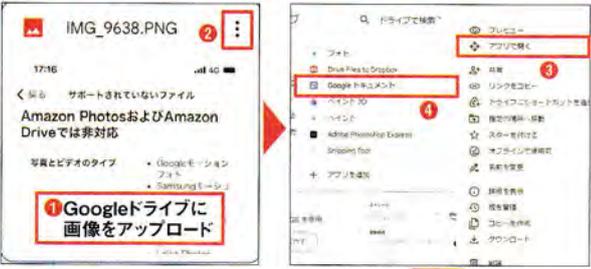


図5 文字を読み取りたい画像をGoogleドライブにアップロード(1)。ウェブブラウザで開いてメニューを表示する(2)。「アプリで開く」から(3)、「Googleドキュメント」を選ぶと(4)、OCRを実行してテキストを抽出する

無料で使える容量が多い



図1 グーグルは「Googleドライブ」というクラウドストレージを提供している。Googleアカウントを持っていれば誰でも利用できる。Androidスマホのユーザーにはお薦めだ

OneDriveと比べるとお得感が際立つ

	Google One (Drive)	OneDrive
無料で使える容量	15GB ※ GmailやGoogle フォトといったほかのグーグルのサービスと容量は共用	5GB
料金	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベーシック (100GB) 月額250円/年額2500円</li> <li>スタンダード (200GB) 月額380円/年額3800円</li> <li>プレミアム (2TB) 月額1300円/年額1万3000円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft 365 Basic (100GB) 月額260円/年額2440円</li> <li>Microsoft 365 Personal (1TB) 月額1490円/年額1万4900円</li> </ul>

図2 Googleは「Google One」というストレージサービスを提供しており、その容量をGoogleドライブに利用できる。プレミアム (2TB) が割安で、OneDriveとほぼ同じ価格で2倍の容量を利用できる

グーグルは「Googleドライブ」というクラウドストレージを提供している。Googleアカウントを持つ人なら、誰でも利用できる(図1)。Googleドライブは無料で利用できる容量が15GBあり、OneDriveよりも多い。また、「Google One」と呼ぶ有料ストレージサービスは、大容量であればOneDriveの価格よりも安い(図2)。なお、容量はGmailやGoogleフォトなど、ほかのグーグルのサービスと共用する。課金するとそれらで利用できる容量も増えるため、それらを活用し容量が不足している人には都合が良い

GoogleドライブではOCR機能が便利。文字を含んだ画像をアップロードし、それを「Googleドキュメント」で開くと、画像内の文字をテキスト化する。OneDriveにも同じ機能があるが、それよりも読み取り精度が高い(図5)。

GoogleドライブではOCR機能が便利。文字を含んだ画像をアップロードし、それを「Googleドキュメント」で開くと、画像内の文字をテキスト化する。OneDriveにも同じ機能があるが、それよりも読み取り精度が高い(図5)。

GoogleドライブではOCR機能が便利。文字を含んだ画像をアップロードし、それを「Googleドキュメント」で開くと、画像内の文字をテキスト化する。OneDriveにも同じ機能があるが、それよりも読み取り精度が高い(図5)。

(図3) GoogleドライブはAndroidスマホやChromebookなど、同社の機器に組み込まれており、そのまま利用できる。パソコンはウェブブラウザやアプリで読み書き可能だ。パソコンにアプリをインストールすると、エクスプローラーからクラウドを操作できる。使い勝手はOneDriveとほぼ同じで扱いやすい(図4)。

ストアからWindowsアプリを入手

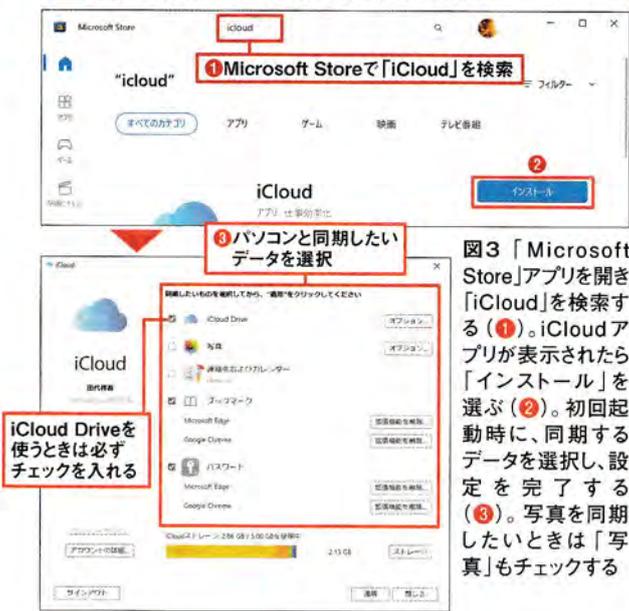


図3 「Microsoft Store」アプリを開き「iCloud」を検索する(1)。iCloudアプリが表示されたら「インストール」を選ぶ(2)。初回起動時に、同期するデータを選択し、設定を完了する(3)。写真を同期したいときは「写真」もチェックする

エクスプローラーで読み書き



図4 アプリをインストールし、同期するデータとしてiCloud Driveにチェックを入れておくと、エクスプローラーからiCloud Driveを操作できる

Androidはウェブブラウザからのみ



図5 Android用のiCloudアプリはない。ただしウェブブラウザからデータを読み書きできる

パソコンとiPhoneでメモを共有



図6 パソコンでiCloudの「メモ」を開くと、iPhoneのメモを閲覧できる。アイデアや行動予定などをiPhoneのメモで書きためておき、パソコンで読み出すと便利

実はWindowsでも使いやすい



図1 「iCloud」や「iCloud+」はアップルが提供しているクラウドサービス。その中に「iCloud Drive」というストレージがある。MacやiPhoneなどアップル製品との連携がスムーズ

2TBの大容量ならOneDriveよりも割安

	iCloud/iCloud+	OneDrive
無料で使える容量	5GB (iCloud)	5GB
料金	<ul style="list-style-type: none"> <li>● iCloud+ (50GB) 月額130円</li> <li>● iCloud+ (200GB) 月額400円</li> <li>● iCloud+ (2TB) 月額1300円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Microsoft 365 Basic (100GB) 月額260円/年額2440円</li> <li>● Microsoft 365 Personal (1TB) 月額1490円/年額1万4900円</li> </ul>

図2 無料をiCloud、有料をiCloud+とサービス名を区別している。無料で利用できる容量は5GBでOneDriveと同じ。有料は月額契約のみで、2TBの大容量は月額1300円で、OneDriveの1TBとほぼ同じ。ギガバイト単価で見るとかなり割安だ

iPhoneユーザーなら断然 iCloud

「iCloud Drive」は、アップルの無料の「iCloud」や有料の「iCloud+」に含まれるクラウドストレージ。MacやiPhoneなどは、アプリのインストールをせずに扱える。利用にはApple IDが必要(図1)。

無料のiCloudでは、OneDriveと同じ5GBまで利用できる。iCloud+と呼ぶ有料サービスでは、50GB、200GB、2TBの追加容量が用意されており、小容量でもOneDriveより少し割安だが、2TBだと大幅に安くなる(図2)。

iPhoneでメモを取る人に、便利な機能がある。iCloudや同+ではメモの共有機能があり、メモをパソコンから読み出せる。街中でiPhoneに発想を簡条書きし、それをパソコンで清書するときなどに便利だ(図6)。

5) iPhoneでメモを取る人に、便利な機能がある。iCloudや同+ではメモの共有機能があり、メモをパソコンから読み出せる。街中でiPhoneに発想を簡条書きし、それをパソコンで清書するときなどに便利だ(図6)。

6) iPhoneでメモを取る人に、便利な機能がある。iCloudや同+ではメモの共有機能があり、メモをパソコンから読み出せる。街中でiPhoneに発想を簡条書きし、それをパソコンで清書するときなどに便利だ(図6)。

併用